

学んだ技術で地域貢献

奥州

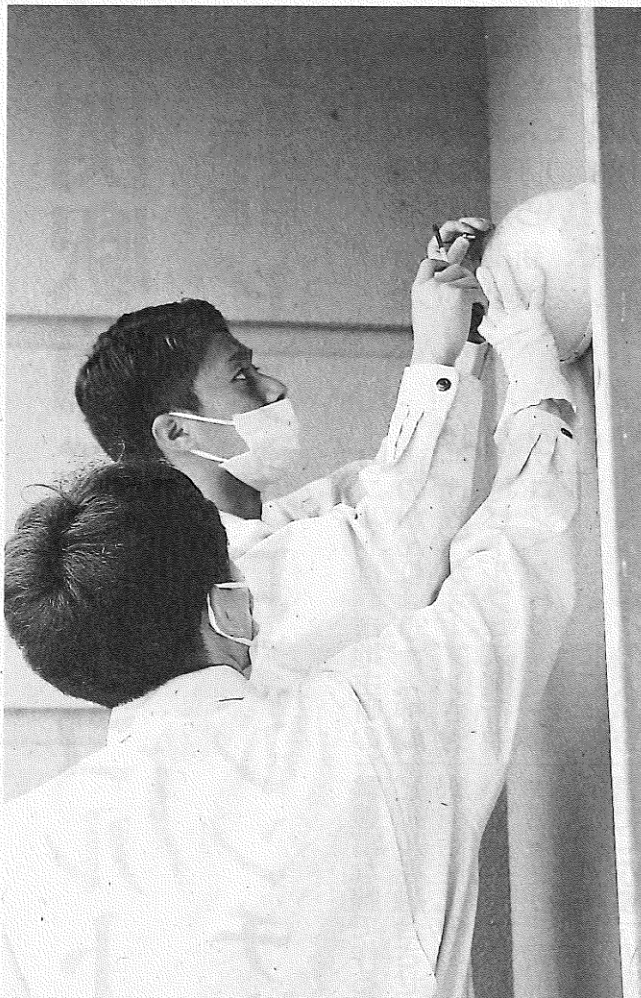
奥州市の県立水沢工業高校(日富仁己校長、生徒376人)の地域貢献活動「テクノボランティア」は、23

日を皮切りに始まった。初日は同市水沢聖天の堀ノ内公園体育館の外灯の蛍光管、グローランプの交換とカバー清掃を生徒5人で実施。生徒たちは「学んだ技術を生かして地域の役に立てるのはうれしい」と作業に当たっていた。

同校のテクノボランティアは2002年から電気科3年生が課題研究として取り組んでいる。市社会福祉協議会が協力して1人暮らしのお年寄り宅や地域の集

水沢工高
電気科3年

外灯の蛍光管交換、清掃 テクノボランティア展開



テクノボランティアで外灯の蛍光管交換などを行う水沢工高生徒

会施設など活動場所を決めて、電気機器の安全確認や清掃活動を行っている。

同日のボランティアは、同市の水沢地区センター(本城清センター長)からの依頼。同センターの事業や中学生の部活動などでも使

用されている同体育館は、夜の利用も多く壁に付けられている外灯が不可欠という。作業では、脚立を使って高い所にある外灯のカバーを外して蛍光管とグローランプを交換した。

さん(17)は「初めて外に出るの活動。実際に見て戸惑いもあったが、いつものようにみんなで声を掛け合って雰囲気も良くてできた」と自信を深めた様子。「ボランティア精神を養うのはこれから社会に出るのにも役立つと思う」と話していた。

同校と市社協によると、22年度は12月まで20回の活動を予定している。